

# 日事 知る あの

高知県知事

## 尾崎 正直



### ◎オランダ王国ウエストラント市と 園芸農業友好交流

九月十五日(火)

今年、日本とオランダ王国にとって日蘭通商四百周年となる記念の年。本県では、経済活性化のトータルプランである産業振興計画の農業分野での大きな柱として、「環境保全型農業の全国のトップランナーの地位の確立」に取り組んでいる。このスピードを加速していくため、環境保全型農業の世界のトップランナーとも言えるオランダ王国ウエストラント市と本県との交流を深め、年内に友好園芸農業協定の締結の実現を目指している。

そのウエストラント市から、ファン・デル・タック市長ら六名の園芸農業関係者が来訪、ナスやピーマン

の産地を訪問された。全国トップの本県の環境保全型農業の取組みを見学いただき、生産者らと交流を深めた。

オランダの面積は九州ほどだが、農産物の貿易額では世界第二位の輸出大国。中でも、ウエストラント地方は別名グラスシティー(ガラスの街)と言われており、数haもある巨大ガラス温室が数千棟も立ち並ぶ。そこは名実ともに世界一の施設園芸地帯であり、環境に配慮した最先端のハイテク農業が営まれている。

十一月には、本県から農業関係者十一名を含む四十八名の訪問団がウエストラント市を訪れ、交流を更に深めるとともに、友好園芸農業協定の締結を予定している。

オランダの園芸農業のキーワードは「イノベーション(技術革新)」。



「Win-Win」の関係を築いていこう」と提案する尾崎知事と、「若い農業者らの交流を進めたい」と応えるファン・デル・タック市長(左から二人目)

環境も規模も全く異なるオランダのシステムを、そのまま本県に導入することはできないが、そのスピリットを学び、次の時代を担う若い世代の育成と、魅力ある産地づくりにつなげていきたい。

### ◎産業振興計画の上半期の進捗状況 等を検証

九月二十五日(金)

四月から実行段階に入った産業振興計画の進捗状況等を検証するフォローアップ委員会の初会合を開催した。

一昨年の知事就任後、「経済の活性化」を最重要課題として位置付け、昨年一年かけて官民協働で策定した産業振興計画。これは、本県の強みである第一次産業の振興を図り、その効果を第二次産業、第三次産業へ波及させるとともに、地産地消だけでなく「地産外商」を強化し、県民の所得向上や雇用の場の確保を目指している。

この計画を着実に進めるために、私が本部長を務める「産業振興推進本部会議」において、PDCAサイクルによる進捗管理を徹底している。さらに、各分野の代表者や有識者等の外部委員二十四人からなるフォローアップ委員会等において、進捗状況の検証や評価、計画の修正・追加について検討していただいている。

当日は、農林水産業、商工業、観光の各産業分野と産業間の連携に関する三百十一施策の「産業成長戦略」、県内の七地域にある二百二十一項目の「地域アクションプラン」の進捗状況等を報告。「順調に歩み出しており、おおむね計画ど



フォローアップ委員会には関係者も含め約90人が参加した

おり進捗している」との評価をいただいた。

今後は具体的な成果が求められる段階に入っていく。これまで以上に各分野、各地域で取組みを磨き上げ、大きな成果につなげていきたい。

◎高知型福祉の実現に向け、あったかふれあいセンターがスタート

九月二十六日(土)

高知県の西部を流れる四万十川の中流域に位置する四万十町大正で、地域の支え合いの拠点となる「あったかふれあいセンター『やまびこ』」の開所式が行われた。

本県では、全国に先行して過疎化や高齢化が進んでおり、中山間地域などでは、子育てや介護、自立支援

など多様なニーズがありながらも、それぞれの利用者が少ないために、それぞれのサービスを細切れに提供する国の基準の下では、サービスが提供されにくい状況となっている。今年度から、これまでの福祉という枠や概念を超えて、住民の方にも参加していただきながら、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしている「高知型福祉」の実現を目指した取組みを進めている。

その取組みの一つとして、国のふるさと雇用再生特別交付金を活用して、小規模でありながら一カ所が必要なサービスを受けることができる「あったかふれあいセンター」を整備している。

今回、大正地域の旧国保診療所の施設を活用してあったかふれあいセ



あったかふれあいセンター「やまびこ」の開所式の様子

ンターを開設した。このほか、昨年度から開設している障害者就労継続支援事業所や地域活動支援センターも併せて整備しており、敷地内の健康管理センターと連携することで、施設全体が地域福祉の総合拠点となった。

今後より多くの住民の方々にご協力いただき、大正地域の福祉の拠点として、地域のニーズに合ったきめ細かな支え合いの仕組みをつくり上げていただくことを期待している。

◎全日空が「龍馬伝ラッピングジェット機」を就航

十月十四日(水)

全日本空輸株式会社(ANA)は、来年の大河ドラマ「龍馬伝」に向け、機体に坂本龍馬の肖像をラッピングしたジェット機を就航させた。

東京―高知間の第一便には、龍馬の兄嫁の坂本千野役として出演する、タレントの島崎和歌子さん(高知県出身)も搭乗された。

このラッピングジェットは、来年九月までの約一年間、全国の空を飛びまわる。羽田空港などでの就航セレモニーでは、ANAの伊東社長やNHK関係者など多数が出席。高知県観光と「龍馬伝」にあわせて、来年一月十六日から開催する「土佐・龍馬であい博」をアピールした。



島崎和歌子さん(右から三人目)や土佐・龍馬であい博のイメージキャラクターとともに

産業振興計画でも、すそ野が広く即効性のある観光分野には特に力を入れている。その観光分野の目玉事業がこの「土佐・龍馬であい博」。龍馬の生まれた街・高知市のメイン会場を始め、岩崎弥太郎の故郷・安芸市、ジョン万次郎の故郷・土佐清水市、龍馬が脱藩した街道沿いに位置する梶原町の三カ所にサテライト会場を設け、「龍馬伝」のメイキング映像や衣装、さらには地域の特性を生かした展示などを行う。

また、龍馬や龍馬を取り巻く人物のゆかりの地や史跡など、「ふるさと」だけが持つ強みを新たな観光資源として生かしていくほか、素晴らしい景観や自然、文化、そして、全国的にも評価の高いおいしい食べ物などを組み合わせ、多くの観光客のおもてなしに全力で取り組んでいる。